

一 般 質 問 通 告 書

上記の件について、下記のとおり質問したいので、会議規則第62条第2項の規定により通告します。

2020年11月20日
東村山市議会議長 あて

議席番号 23番
質問者 山田 たか子

記

1. 子どもと保護者の不安に応える相談体制の強化を

未来を担う子どもたちを安心して産み育てることができるよう取り組む中で、コロナの影響により一層の体制拡充が欠かせない。いじめ・不登校・虐待防止の観点からも、悩み事への早期対応は重要なポイントとなる。相談者の不安や悩みに寄り添い、専門性が効果的に発揮されるよう相談体制の強化を求め、以下伺う。

- 1) 第4次総合計画 基本目標1「みんなで支え助け合う、健やかにいきいきと暮らせるまち」について
 - ①「安心して子どもを産み、楽しんで子育てができる健全な育児環境を充実」のために行った施策と、その成果と課題を伺う。
 - ②「地域まるごと子育て支援」の推進による地域のネットワークづくりの進捗状況と、具体事例を伺う。また、子育て家庭の孤立化を防ぐことができているのか、見解を伺う。
- 2) 子ども相談室について
 - ①相談内容の主な主訴を伺う。また、近年の相談傾向をどう捉えているのか伺う。
 - ②「必要に応じて学校等の連携も行う」とされているが、学校との連携の判断基準と、連携の内容を伺う。過去4年間、学校との連携件数も併せて伺う。
 - ③子ども相談室では「子どもと保護者の方の心配ごとがなくなるまで」継続的に関わっていただいているが、その判断は誰がどのように行うのか。
 - ④相談室利用者の声には、どのようなものがあるのか。その声に対し、どのように対処されているのか伺う。

- 3) 過去4年間の子ども相談室相談員の職員構成(正規・非正規)・資格・勤続年数別人数、相談員一人当たりの担当件数を伺う。相談総件数が毎年増えているが、相談員の人員配置に課題はあるか。

2. コロナ禍における災害対応について

コロナの感染対策を取った中での避難所運営が求められる中で、これまでの住民との運営の有り方の再検討がすすめられている。誰ひとり取り残さないための避難所体制には、防災・福祉・教育・まちづくり等の連携が不可欠となる。市民のいのちを守るための職員の増員を求めるとともに、現状における東村山市の災害対応について伺う。

1) 東村山防災ナビについて

- ① 9月に行われた情報訓練の成果と課題を伺う
- ② 3密回避が求められ、避難所の収容人数がこれまでとは異なる。避難所混雑状況の周知を防災ナビで情報提供する予定の有無を伺う。

2) 要配慮者の避難について

- ① 避難行動要支援者名簿の災害時の利用方法と、避難支援計画の作成状況を伺う
- ② 避難所から、要配慮者を優先して受け入れていただく二次避難所への移動手段の支援は、どのように対応されるのか伺う。

3) 避難所運営について

- ① コロナ禍における風水害時の避難所運営の見直しは進んでいるのか。各避難所運営連絡会の進捗状況を伺う。
- ② 3密対策としても在宅避難を呼びかけているが、在宅避難者や車中避難者に対する支援体制を伺う。
- ③ 新規にスポーツセンター・サンパルネの2ヵ所を風水害時の避難所として開設されることによって、市内全避難所のコロナ対応収容人数はどの程度の増加となるのか。また、避難所要員はどのような体制となるのか。
- ④ 被災地では、環境の整った避難所に避難者が集中する事例が起きており、エアコンの有無も一つの選択肢となっている。当市の各避難所の環境整備格差をどのように捉えているのか。また、格差是正の計画を伺う。
- ⑤ 避難所運営に直接携わる避難所要員となる職員の人数を伺う。そのうち、市内在住の職員の人数と割合を伺う。

4) いま、かつてない状況で業務に追われている職員の方々の負担増は想像以上ではないか。このような状況下で万が一災害が起きたら、職員は市民の命を守ることに従事できるのか。災害時には市民のいのちと暮らしを守る重要な役割を担っていただいている。今こそ正規職員の増員をすすめるべきではないか。市長に伺う。